

オンラインを活用した誰でも参加ができる事業の実施

(担当：子ども家庭部児童青少年課)

事業の背景・目的

新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度は4月当初に市内4つの全児童館が休館の措置となりました。6月より緊急事態宣言の解除もあり通常の開館に戻りましたが、調理・飲食を伴うすべての事業や大人数が集まる事業の禁止、これまで定員として来た数の半分での実施等、各児童館の事業、合同事業共に多くが縮小又は中止となりました。

小金井市には子どもの権利に関して、「子どもの権利に関する条例」が平成21年に施行されました。以後児童館合同での取り組みとして、条例の条項にある、子どもたちの「意見表明」やそれを実現させる施設の責任に則った、子どもたちが主体的に企画準備から実施まで関わる年1回の「イベント」を行っています。ですが、多くの人が集まる事業となっていたことで、それも中止とせざるを得なくなったことへの危惧から、感染対策の枠の中で、子どもたちの参画という主旨に則た事業を展開できないものかと職員で話し合いました。

事業の概要

休館中、児童館や遊びの情報を家庭にいる子どもや乳幼児の保護者に対して、オンラインで発信するという試み（おうちで児童館）を行いました。

そこに着想を得て、子どもたちが考え、案を出せること、そしてそれが結果的に多くの子どもたちの参加を生むこと、そしてそこに密が生まれなければ、という発想でオンラインを使用したイベントの企画実施になりました。

行事名は「オンライン脱出ゲーム～サイバーミッション・ホームページからの脱出～」。各児童館で子どもたちと会議を開き、児童館ごとにクイズや謎解きの「ミッション」を作成。それを市のホームページに載せることで、市内の多くの子どもたちが家で参加できるというものです。

スタッフの子どもたちを募集して、1月から実施まで月2回程度児童館で実施しました。「謎解き」が小学生の間でも今流行りということもあり、小学生たちの力でもかなりバラエティーのあるおもしろい問題ができあがりました。全館問題（ミッション）が出来上がったところで、職員渾身のアイデアで生み出したキャラ「電脳世界の王キクゲイツ」が、パソコンで市のホームページから、このサイトを開いた子どもたちを「電脳世界」に引きずり込み、謎をすべて解かないとそこから脱出できない、という展開にしました。キクゲイツは実際に職員が扮装し、ゲームの中にその扮装した姿を登場させました。

そうして年度末の3月に市のホームページ上に大々的に約1か月間オンラインゲームとして配信し続けました。

工夫点・留意点

今回に限らず、小金井市の児童館では、毎年小学生以上の子どもたちに企画からかかわってもらい事業を展開していますが、こちらがまっさらな状態で子どもたちに「何がしたい？」と問いかけても、そう簡単にはこちらが思い描くようなものは出ないものです。

大事なのは、こちらが今の子どもたちの趣味嗜好などにアンテナを張り、いかに魅力ある素材を提案できるかだと思います。これまで10年以上にわたり、「おばけ屋敷」「巨大迷路」「遊びとステージのフェスティバル」などを行ってきましたが、粋はこちらが作り、その中身を子どもたちが中心となって作り上げていく、という手法を繰り返してきました。これには高校生以上のボランティアの協力もあり、このやり方は間違っていなかったと考えます。子どもたちの発想は重要ですが、それを子どもたちの想像を超える「本物に」持っていけるか、職員の発想力や手腕も欠かせないわけです。

事業の効果

「オンライン脱出ゲーム」ですが、ミッション構築のための会議には各児童館差はありますが、平均すると毎回7、8人の参加。そして脱出ゲームには最終的にすべてクリアし、児童館で用意した景品をゲットできた数は57人（閲覧数は別）でした。結論としては、こちらが思っていたほどの参加は残念ながらありませんでした。企画立案が遅かったことや、会議スタッフのほとんどが高学年だったために、問題の難易度が高くなり、低学年の子どもたちが解けなかったことが反省としてあげられました。

ですが、一定の反響もあり、令和3年度も児童館を取り巻くコロナ禍の状況も変わらないことから、新年度に入りすぐに次のオンライン企画の準備に入りました。

オンラインの活用は、これまでみんなが一体となって楽しむという当たり前の形とは大きく異なりますが、やり方次第では非常に面白いという結論にも至りました。市の規則等により子どもたちが児童館の端末に触れることはできないので、学校のIT教育のようにはいきませんが、子どもたちと楽しみながら色々考え立案することをこれまでどおりできたことは大きな効果だったと考えます。

課題・今後の展開

いつ、これまで通りの日常に戻るか、まだ誰にもわからない状況ではありますが、多くの子どもたちが今も変わらず毎日児童館に遊びに来ています。子どもの権利に関しては、条例云々ではなく、日常的に子どもたちが主役となり、彼らの意見ややりたいことを活かしていくのが児童館の日常的姿と考えます。ですが、現在マスクの着用や飲食の禁止、大声をだしたり、じゃれ合う遊びも禁止など、子どもたちには不自由な中で遊んでもらう状況はまだまだ続きそうです。

また、コロナ禍で子どもたちの今まで気づかないことに気づいたりもしますし、イベントの構築以上に「見守り」に力を注がなくてはならないとも思います。ですが、今後も職員はこの状況を踏み台に、頭をフル回転させて新しいことを子どもたちとなすべく努力は惜しめません。オンラインの活用はその一つですが、オンラインしかできないからやったのではなく、事業を展開していくための新しい手法を考えた結果です。

こがねいしじどうかん
小金井市児童館
よんかんごうどう
四館合同
オンライン行事

だっしゅつ

オンライン脱出ゲーム

だっしゅつ

～サイバーミッション・ホームページからの脱出～

かいさいきかん れいわ ねん がつ か げつ がつ にち きん
イベント開催期間：令和3年3月8日(月)～3月19日(金)

けいひんはいふぼしょ しないかくじどうかん かいかんじかんちゆう つ くだ
景品配布場所：市内各児童館（開館時間中に、マスクを着けてきて下さい）

けいひんはいふたいしょう しょうがくせい こうこうせいせだい かくかんせんちやく にん
景品配布対象：小学生から高校生世代まで、各館先着50人

なか はや かくかん にん とくべつしょう
（中でも早かった各館5人には特別賞があります！）

～サイバーミッション・ホームページからの脱出～は、
ホームページから参加できる、児童館の子どもたちが問題を
考えた謎解き脱出ゲームです。家でホームページを開いて謎を
解き進め、最後のページまでたどり着いたら児童館に報告しよう！
先着で景品がもらえます。インターネットで↓のホームページに
アクセスし、ゲームに参加して下さい。

オンライン環境がない人も参加できます。

参加方法 ①・②いずれかの方法で参加して下さい。

①小金井市ホームページ「遊ぶ・でかける」→「児童館」→
「小金井市四館合同行事のお知らせ」→「オンライン脱出ゲーム～サイバー
ミッション・ホームページからの脱出～」にアクセスしてください。

QRコードから直接児童館のページにアクセスすることもできます。

カメラで読み取ってください！



②オンライン環境がない人は、各児童館に来館して下さい。

問題冊子を用意しています。

お問い合わせはこちら！



ほんちょう
本町児童館
042-383-1176



ひがし
東児童館
042-383-1177



ぬくいみなみ
買井南児童館
042-383-9777



みどり
緑児童館
042-383-6910



うらめん
くわしくは裏面を
チェック!!